

序

京都大学農学部附属演習林の上賀茂，白浜，徳山の3試験地における試験研究の主要な目標の一つは，種子交換による外国産樹種の導入，育成におかれている。特に外国産マツについてはすでに数十種が生態学，生理学，育種学などの研究材料として広い分野に利用され，わが国におけるマツ研究の中心基地になりつつあるといっても過言でない。このような試験研究の特色を生かし，さらに発展させるために，昭和43年「マツ林の造成に関する研究」という課題のもとに演習林，林学教室の関連研究者による研究グループが，佐野宗一教授を代表者として結成され，以来文部省科学研究費（総合研究）の助成をうけて広汎な研究を進めてきた。その成果はすでに演習林報告や関係の学会誌などに報告されているが，一同，これらの知見を基礎にして演習林研究者の社会的使命に応えるべく今後ますます鋭意研究を積み重ねてゆくことを期している。

本集報には，同グループによって達成されたマツに関する膨大な知見のうち，これまで未発表であった研究資料のいくつかをとりまとめ，併せて本演習林で行なわれた若干の調査研究をも集録した。ところで，これら一連の業績は前述のごとく，大なり小なり佐野宗一教授の厳しくもまた温かな研究指導に負うものである。同教授は昭和37年以来10年の長きに亘って本学における林学の研究教育の充実と演習林の発展のため尽瘁され，多大の功績を遺されたが，本年3月末日を以て停年のため本学を去られることとなった。

本集報の発刊にさいし，紙上を借り改めて教授の高邁な人格を敬慕しつつ，その功業に心から謝意を表する次第である。

昭和47年1月25日

京都大学農学部附属演習林長

半 田 良 一